

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390102178		
法人名	株式会社 かいごのみらい		
事業所名	グループホーム御領 (桜)ユニット		
所在地	熊本県熊本市東区御領3丁目8-52		
自己評価作成日	平成31年3月17日	評価結果市町村受理日	令和元年7月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成31年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成30年3月1日に開設し「一人一人の想いに寄り添い、だれでも集えるアットホームな、毎日笑顔で過ごせる、理想のみらいのかいごを目指します」という基本理念にもありますように一人一人の想いに寄り添い、その人の生きてきた歴史・習慣・思い出・こだわりを尊重し、理解し共感する事を大切にその人らしく、基本理念の頭文字をとった「ひだまり」のような暖かい雰囲気の中でご家庭のように穏やかに過ごせるようスタッフ一同お手伝いをさせて頂いています。体操やレクリエーション活動も行っていますが、個々の個性を十分把握しただけスタッフは黒子に徹していつも楽しくお互いを思いやり、心にゆとりをもって毎日を過ごし地域・ご利用者・ご家族・職員で助け合いひとつの家族となり皆が笑顔で幸せになれるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設してまだ1年のホームでは、ケア規範として自分たちで掲げた理念に即したケアに邁進し、地域とともにありたいと高い意識で啓発に努力している。運営推進会議の情報が地域へ出る機会とし、地域サロンや老人会での認知症啓発等ホームの持つスキルを地域に還元できるという相乗効果が表れている。入居者は100歳から70代と幅広いが、歌で楽しむ日常や、ドライブ、買物ツアー、スイーツアー、父の日には男性での珈琲店への外出(ほっこりツアーとして)、ボランティア訪問等充実した日常生活を支援している。入居者個々の潜在能力を引き出しながらの生活は張り合いや自信回復となり、入居者同士の労う姿や助け合う姿も見られるホームである。この1年地域に出る努力と職員、地域、家族の協力があつたからこそできた初期基盤作りであつたと振り返る姿勢に大いに評価したい。この地での認知症ケア啓発や、高齢者福祉への寄与が期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や地域交流室、事務所、リビングなど目につく所に掲示したりケア会議等で理念に繋げた助言等を行うようにしている。	開設時、ゆっくり時間が流れる様に過ごしてもらいたいとの職員の思いを込めた4項目の理念を掲げている。入居者個々の想いに寄り添い、個々の違いを認識し、職員自らが考えてケアに生かすものとして理念を掲げ、掲示による意識付けや、理念を基に話し合い等ケア規範としている。地域密着型事業所としての役割も認識し、自治会や老人会の会合に参加しながら啓発に努め、自治会長からの情報がユニット名になる等この地に根づく為の努力が随所に見られる等初期基盤作りに邁進するホームである。	<b>【理念】</b> ひ＝一人一人の想いに寄り添い だ＝だれでも集えるアットホームな ま＝毎日、笑顔で過ごせる り＝理想の「みらいのかいご」を目指す
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民として町内会に入会し回覧板を回す際は、ご利用者と一緒に近隣宅に向向している。また町内自治会の資源物回収への協力や近隣住民との関わりを多く持つようにしている。	高齢者福祉事業所がない地域への開設に、近隣住民から大きな期待が寄せられたホームである。回覧板が情報発信源(ホーム便りを回覧)や地域の情報リサーチの場となり、地域祭りや町内会の生き生きサロン等への参加や、町内文化祭展に入居者の作品を展示したり、運営推進会議を通じ地域から要望によりサロンの中で認知症講話を行い、ボランティアとの交流等まだ開設して日は浅いが、地域の中に開設した意義を真摯に捉え、地域の中に溶け込むよう努力されている。	小学校や保育園との交流について依頼をされており、今後の展開に期待したい。また、地域交流室は解放されており、会合や趣味などに使ってもらうことで入居者との交流の場として生かされることと期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内のサロンでの認知症に関する講習会の実施。自治会や老人会会合での事業所の紹介等行っている。地域ミーティングへの参加。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一回定期的に行っている。地域の行事等教えて頂いたり、事故や身体拘束等の報告の際は、貴重な意見やヒントをいただいたりして向上に活かしている。	運営推進会議を開催するに当たり、自治会へ意義や2ヶ月毎に開催する必要性を民生委員と一緒にあいさつに回りスタートしている。ホームの新聞や介護保険サポーターポイント事業、入居者や事業所の状況等を説明し、意見交換が行われている。地域の行事リサーチの場として生かされている他、身体拘束適正化(虐待や身体拘束)等も具体的な事例を基にした説明は、自治会会合や老人会にも説明を依頼される等有意義な会議である。	2町内自治会長・5町内自治会長・2町内相談役・託麻西校区社会福祉協議会会長や民生委員、地域包括支援センター、家族等充実したメンバー構成である。多岐に亘った意見が出され、この中での情報が地域との接点として活用されている。会議の中での情報が生かされたケース等の進捗状況もあれば更に意見や提案が出されるものと大いに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度は介護相談員の受け入れはできていないが来年度5月からの受け入れ準備ができています。事故報告書等の提出にて協力関係を築いている。	区役所の依頼により認知症サポートリーダー養成講座の実習先としての受け入れ、ケア会議や県の介護施設権利擁護推研修などに参加しているが、今のところ必要最低限の関わりである。地域包括支援センターからの相談により入居に至ったケースもある。また、事項報告書提出に出向き、情報を発信している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体での研修会や身体拘束に関する研修会・会議を定期的に行い職員全体で意識・把握に努めている。身体拘束禁止も掲げている。玄関の施錠に関しては、玄関先の道路事情も踏まえご家族への説明・了承を得て現在は施錠を行っている。	身体拘束廃止に向けた指針を掲げ、研修による意識強化としている。道路に面したホームであり、安全面や離設の可能性を検討し、本部との相談や家族の承認を得て玄関は施錠している。入居者個々の外出傾向等を把握し、一緒に散歩に出かけたり、ホーム内を一緒に歩く等職員体制により支援している。転倒予防に以前の入所先での使用と家族の依頼によりセンサーを使用するケースもある。ホーム内外の研修により、拘束の弊害等全員が正しく認識している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体での研修会や定期的な研修会・会議にて職員全体で意識・把握に努めている。ストレスケアの一環として職員対象のマッサージ実施や日頃の関わりの中や面談で早期発見に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に対する理解は乏しいと思われるので今後、グループ会社の協力も得ながら研修の実施等を行っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には口頭にて説明・納得・質問等を得た上で締結している。改定がある場合は書面にて同意を得て契約を理解して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者会議や運営推進会議の際にご家族に参加して頂いてご意見・要望等を頂いている。今後、介護相談員の派遣や家族会を発足により意見や要望等を求めやすくなるのではと思う。	家族には入居に際し、ホーム内外の苦情相談窓口や第三者委員として地域包括支援センターの存在を説明し、何んでも遠慮なく申し出て欲しいと依頼している。家族の訪問時職員への申し出に家族との話し合いの場を作ったり、1周年の祝いの席で家族会を立ち上げ、意見交換が行われている。また、運営推進会議も問題提起の場としている。	家族の中には、預けているという遠慮等により言い出されないこともありうる。家族より多く意見や要望を出してもらえるよう意見箱の設置を検討いただきたい。 また、日常生活や入居者の状況は家族と共有されており、更には記録方法を変更するに当たり、パソコンに向かう時間がある事等を説明されることも必要と思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議の前に書面で職員からの意見や提案を出してもらい会議の際に再度確認し反映させている。代表者も会議に参加され意見や提案がしやすい。	会議事前に検討事案を出してもらい、ケア会議で検討する体制としている。法人から社長や専務等も参加し、次年度に向けた重点目標と課題等共通認識としている。法人全体での意見交換会も開催し、各ホームの課題の解決に法人全体で解決している。また、管理者は日々のケアの中での意見交換など、話やすい職場作り、風通しの良い環境を目指し職員とのコミュニケーションに努められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な会議に代表者が参加されることで直接処遇面等の動向を確認できるなど職員の個々の意見を伝えやすい場がある。資格に関しては合格祝い金の給付などやりがいや向上心につながるような環境整備も行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での研修会参加、できるだけ外部研修への参加機会を設けるよう努力はしている。内部研修は年間計画に基づく研修や適宜必要な研修会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡会の研修会等に参加し意見交換等を行い当ホームの質の向上に取り組んでいる。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入以前に関わっているケアマネや事業所担当者、ご家族から不安や要望等の情報収集した上でできるだけ寄り添えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用相談時に困られていることや不安なところなどを傾聴してできるだけ安心してご入居できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入以前に関わっているケアマネや主治医、事業所担当者から情報収集した上で職員、ご家族で情報共有しケアを行いながらご本人の不安をできるだけ取り除けるよう必要な支援を見極めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できること(料理や掃除など)を見極めて見守りながら手伝わなくてはいけないところは職員間で情報共有し支援をし本人の役割を粗こわないように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族の距離感や関係を粗こわないようにご家族のできる範囲での協力依頼と関わりの大切さを伝えている。またできるだけご家族との連絡や面会時の近況報告や相談を密に行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居前のいきつけのお店への訪問や今までのかかりつけ医の利用などご家族の協力も得ながら行っている。ご友人との関わりも継続して行える様面会時等はゆっくり過ごせるような配慮をしている。	家族や友人の訪問、馴染みの美容室(職員の送迎)の利用、デパートでの買物、初詣、年末年始の外出・外泊、自宅への帰り家族と過ごされたケース等馴染みの関係が途切れないよう家族の協力により支援している。また、かかりつけ医や晩酌等継続して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できるだけ孤立がないようにつとめているが個を好まれている方への配慮もしながら職員が利用者の間にはいり円滑なコミュニケーションがとれるよう努めている。関係性をみながら席替えをしたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された際は、お見舞いに行ったりご家族への電話等での連絡を密にし状況を把握したりしている。退所された方には年賀状のやり取りを行い関係性を継続している。亡くなられた方のご家族とはボランティアという関わりで関係性が継続できているケースもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で、思いや気持ちを把握し出来るだけ意向に沿えるよう努めている。ご利用者ごとの担当制にしカンファレンス等で話し合い情報の共有を行っている。	入居時本人・家族に思いを聞き取り、ホームで出来ることは叶えたいとプランニングに反映させている。家族との面会や外出を通じ故郷や家族とのかかわりを持ち続ける等に表れている。難聴に対するコミュニケーションツールとして筆談やジャスチャーを交えた会話や、発語や意思表示困難には、表情・言動での推察とともに、家族に相談しながら本人の意向に沿うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス導入以前のケアマネ等やご家族、本人から情報収集しご希望や継続できる部分は継続できるよう職員間で共有し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の顔色や言動の変化に注意し朝礼時の際の申し送りでの情報収集や日誌、申し送りノートの確認等で各自状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員と計画作成者のみならずカンファレンスでは他職員の意見、また事前に主治医の意見やご家族や本人の意向も参考にプランに反映させ現状に即した計画を作成している。	本人や家族の意向を聞き取り、実生活が見えるプラン作成に努めている。日々の中での課題として転倒防止に対する対策や家族・地域との関係性の継続等カンファレンス・モニタリングでの情報を踏まえ評価・継続の可否を見極め、大きな変化には随時追加している。定期的には半年毎でのプラン見直しや退院後の見直し等現状に即した個別的なプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に関してはタブレットにて電子化されており各自閲覧をすることで情報共有をしているがケアプランとの連動した記録に関して各ケアプランをファイリングし情報共有に努めているが改善が必要である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関からの定期的な訪問診療、訪問マッサージ、整体、訪問理美容また、地域のサロンへ参加など本人やご家族のご希望を受け入れやすくしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の際にボランティアの協力依頼や地域のサロン活動や行事等の情報提供をして頂き参加している。又、回覧板を職員同行し利用者にもっていつでもらったりもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際、協力医の訪問診療を希望するかどうかを確認し、家族が選択するように説明している。緊急時は早急に診察が受けられるようにご利用者に変化があればこまめに情報提供をしている。	訪問診療や、以前からのかかりつけ医等希望に応じ、定期受診や専門医受診は家族が同行されている。受診結果や日頃の健康状態は家族と共有し、訪問歯科など必要な医療支援についても相談に応じている。日々のバイタルチェックによる健康管理をはじめ、感染症の時期は家族の面会制限や、マスク、検温、エブア水による手すりの掃除などの対応を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の変化に対しては、ユニット問わずその都度、看護師に報告している。看護師は両ユニットの情報交換をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院へ入所中の情報提供を行い、退院時は可能な限り病棟看護師と話し、退院後の注意点や入院中の状況を把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の看取りに対する同意書、延命希望の有無の説明を行っている。担当者会議、状態変化時に意向の再確認を実施している。終末期の対応はないが、看取りの対象者がいれば支援方法等話し合う場を設ける。	入居時に法人の作成した指針をもとに、家族へ説明し、意思確認書により同意を交わしている。看取り支援に関して、看護職員が担当しエンゼルケアの方法などを学んでいる。また、法人合同意見交換会議で、他のグループホームでの看取り支援についての取組や事例を聞く機会があり、その後ホーム内で報告されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成しスタッフ全員一読している。症状別対応マニュアルを使用し研修を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を消防署員立会いの下に行っている。また定期的な会議の際に災害時の避難場所や物資の搬入先等の確認やマップを掲示している。	1回目の訓練では消防署の立ち合いにより、昼想定で職員が6名参加し、総合訓練が実施されている。訓練後の総評で ①役割分担が出来ていたこと ②火災現場の確認の際、居室のドアを少し開け確認し、確認後はドアを完全に閉める ③火元をしっかり職員へ伝えるようすることが重要である。 など指導を受けている。運営推進会議でもメンバーより、訓練予定のレジメをみて内容について質問されるなど、ホームの安全管理へ関心を持って参加されていることが窺える。	今年度は1回の訓練のみであり、今後は最低2回の訓練の実施と、コンセントの埃など安全チェックに期待したい。また、訓練には地域の協力や家族にも参加を呼びかけ、意見や感想を受ける事も良いと思われる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スピーチロックに関するアンケートを職員に実施し会議の際に周知徹底を行ったり、職員間で排泄確認の声かけの配慮、本人へ排泄確認の際は耳元で確認したりの配慮を行っている。	研修会の中でプライバシーの確保に関して、具体的なエピソードを発表しながら、共有を図っている。トイレでの確認時に大きな声を出してしまいがちの現状に、特に注意することを会議などで確認している。呼称は入居時に家族と相談し決定しており、同性介助へも可能な限り対応している。	居室へ入る際は、在室の有無に関わらずノックの徹底が必要と思われる。食事のエプロンは、状況に応じて使用の可否や、首に負担のない使用方法等検討いただきたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	否定せずできるだけ時間をかけて本人の話を傾聴し希望や訴えを確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴、就寝時間など必ず本人に確認をしながら一人一人のペースを大事にし過ごして頂けるよう職員間での情報共有を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容の支援、外出着や生活着を本人に選んで頂いて確認を行い、化粧をされている方の支援や促しにも注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月1日に赤飯を提供したり季節の行事の際は雰囲気を変え松花堂弁当にて提供したりしている。出来る事の見極めを行い下ごしらえの手伝いや配膳、下膳、洗い物やお盆拭きなどして頂いている。その日の献立は見える所に掲示している。	専任担当者の作るメニューをボードに掲示し、1日は赤飯による見当識に対応し、正月のお節などイベント食は松花堂弁当としたり、ソーメン流しなど楽しい食事を支援している。また、午前のおやつ時にはアップルティーや吟味した緑茶など飲み物を充実させている。入居者は職員と紫蘇ジュースやクッキーを作ったり、食後の下膳など出来る事で食に関わっている。	イベント食は広報紙にも掲示されているが、普段の食事についても家族へ紹介することで安心に繋がると思われる。職員は持参した弁当などを食べているが、味や量の確認を兼ねて1名でも検食者を設け、入居者の代弁者として次回に活かされることを期待したい。また、キッチンバサミの使用法や食事を急がせてしまうこともある洗い物の音については、十分な配慮が必要と思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立表を基に摂取量は毎日記録に残し体調や状態に応じて形態の変更等を行い、変更が共有できるよう掲示したり、食札を作りその都度分かるようようにしている。水ゼリーや本人が好まれる物なども撮り得れて摂取量が確保できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に歯科訪問診療を受け清掃方法等の助言を頂きながらできるだけ自身でできる方は行って頂き仕上げ磨きをお手伝いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの間隔を考慮し、声掛けの時間を決めているご利用者がいる。オムツ使用は夜間とし日中はトイレ誘導を行っている。	日中はトイレでの排泄を基本とし、個々に応じた声掛け、誘導の時間や方法を職員間で共有している。排泄用品の組み合わせも一人ひとりに応じて検討しているが、中には昼・夜布パンツで過ごされる方もおられる。夜間のみオムツやポータブルトイレを使用される方もあり、ポータブルトイレは掃除の徹底や日中は日光干しするなど清潔に管理している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	以前より下剤内服しているご利用者は継続し、コントロールしている。その他のご利用者に対しては定期的な牛乳やバナナ等食べ物を工夫している。必要時は内服処方方を短期間依頼する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の状況によって午前・午後で対応している。できるだけ車椅子の方もスタッフ2名にて浴槽内に浸かって頂いてリラックスできるように努めている。季節を感じてもらえるようゆず湯等も行っている。	入浴は週2～3回、午前・午後で支援している。開設時に機械浴を設置予定していたがまだ設置されておらず、入居者の状況によっては職員2名で対応している。また、職員は身体状況に配慮しながら浴槽内でゆっくり浸かり、リラックスの時間を持ってもらえるようにしており、季節湯も取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決めておらず眠くなれば臥床を促している。不眠の為苦痛を伴う時は、日光浴等実施し効果がなければ眠剤を検討している。適宜、訪室し室温調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	重要な薬については、スタッフに伝達し注意事項を説明している。内服については、複雑にならないように一包化しダブルチェックをし与薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や趣味等を考慮しながらご本人の想いを確認しながらできること、したいことの見極めをしっかりと行ないながら無理のないように見守り、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力を得ながら外出の機会を設けたり季節がいい時期などは行事などで外に出る機会を設けている。近隣周辺の散歩等も状況をみながら対応している。外出ではないが気候がいい日など1日1回は日に当たる機会を設けている。	公民館でのイベントやサロンへ出かけ、生け花や昼食を楽しんで帰園される方、回覧板渡しへの同行等支援している。また、美容室の利用や山登りの経験から戸外に出る事を楽しみにされている方など、個々の要望に対応している。また、阿蘇方面へ紅葉狩りや買い物、父の日スイーツツアーと命名したコーヒー専門店への外出など、職員のアイデアを活かし楽しい外出も企画されている。	気候が良い時はデッキでの日光浴など支援されており、頻繁に外出できない入居者にとっては外気に触れる良い機会と思われる継続いただきたい。家族の協力により正月の外泊をされた方もおられるが、今後は、今だからできる家族との外出を後押ししていただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しい方は規定にご家族から同意を頂き事業所にて預かり本人の状況希望にて買物支援などを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から時間指定等要望があられる方以外は特に制限はしていない。携帯電話を所持されている方もおられる。家族との電話受け継ぎを行い連絡が取れる体制を整えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先にはご家族が提供して下さったひな人形を飾ったり観葉植物を飾ったり、季節の花等をテーブルに飾ったり月毎の壁面装飾を工夫したりしている。ご利用者によっては自身が書かれた絵や作品、ご家族との写真等を居室に飾ったりして頂いて心地よく過ごせるようにしている。	玄関から入り左右に配置され、ユニット名を地域の小学校に植えられている桜と榎を名前とし、食堂を兼ねたりリビングホールは、月ごとの壁面や、家族や職員が持ち寄った花を飾り季節を醸している。また、ホールは入居者が集う場所であり照明や温湿度管理をその時々で調整し、踊りやハーモニカなどボランティアとの交流の場所にも活かされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者が好まれる場所(日当たりのよい場所やテラス等)に椅子を配置したり、好きな音楽をゆっくり鑑賞できるよう別室を利用したりしてゆっくり心地よく過ごせるような空間作りを工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身が書かれた絵や作品、ご家族との写真等を飾ったり、馴染みの家具等を持ってきて頂いたりして居心地良く過ごせるような空間づくりに努めている。	居室の表札は住所とホーム名を取り入れ(御領3丁目1-〇〇、2-〇〇)、入り口の掲示コーナーには、職員や家族によって飾り物が施され、目印となっている。入居時に馴染みや必要な品の持ち込みを依頼しており、テレビやラジカセ、懐かしいアルバムなどが置かれている。また、愛猫の写真を油絵にした作品を額に入れ、本人が見やすい位置に固定して飾る等家族の思いが込められている。居室内は掃除も行き届き、排泄用品をプラスチック小ケースで管理するなどプライバシーへの配慮も見られた。	入り口の掲示ボードについては、今後も本人の好みの品など一緒に検討しながら活用されていくことを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ等が分かるような表示の工夫やご自分で自身の居室と確認がとりやすいような位置に表札を掲げている。また、居室内の動線を考えての物の配置や移乗バーの設置することで安全かつ自立した生活が送れるよう努めている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390102178		
法人名	株式会社 かいごのみらい		
事業所名	グループホーム御領 (榎)ユニット		
所在地	熊本県熊本市東区御領3丁目8-52		
自己評価作成日	平成31年3月17日	評価結果市町村受理日	令和元年7月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成31年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成30年3月1日に開設し「一人一人の想いに寄り添い、だれでも集えるアットホームな、毎日笑顔で過ごせる、理想のみらいのかいごを目指します」という基本理念にもありますように一人一人の想いに寄り添い、その人の生きてきた歴史・習慣・思い出・こだわりを尊重し、理解し共感する事を大切にその人らしく、基本理念の頭文字をとった「ひだまり」のような暖かい雰囲気の中でご家庭のように穏やかに過ごせるようスタッフ一同お手伝いをさせて頂いています。体操やレクリエーション活動も行っていますが、個々の個性を十分把握しできるだけスタッフは黒子に徹していつも楽しくお互いを思いやり、心にゆとりをもって毎日を過ごし地域・ご利用者・ご家族・職員で助け合いひとつの家族となり皆が笑顔で幸せになれるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や地域交流室、事務所、リビングなど目につく所に掲示したりケア会議等で理念に繋げた助言等を行うようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民として町内会に入会し回覧板を回す際は、ご利用者と一緒に近隣宅に出向いている。また町内自治会の資源物回収への協力や近隣住民との関わりを多く持つようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内のサロンでの認知症に関する講習会の実施。自治会や老人会会合での事業所の紹介等行っている。地域ミーティングへの参加。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一回定期的に行っている。地域の行事等教えて頂いたり、事故や身体拘束等の報告の際は、貴重な意見やヒントをいただいたりして向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度は介護相談員の受け入れはできていないが来年度5月からの受け入れ準備ができています。事故報告書等の提出にて協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体での研修会や身体拘束に関する研修会・会議を定期的に行い職員全体で意識・把握に努めている。身体拘束禁止も掲げている。玄関の施錠に関しては、玄関先の道路事情も踏まえご家族への説明・了承を得て現在は施錠を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体での研修会や定期的な研修会・会議にて職員全体で意識・把握に努めている。ストレスケアの一環として職員対象のマッサージ実施や日頃の関わりの中や面談で早期発見に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に対する理解は乏しいと思われるので今後、グループ会社の協力も得ながら研修の実施等を行っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には口頭にて説明・納得・質問等を得た上で締結している。改定がある場合は書面にて同意を得て契約を理解して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者会議や運営推進会議の際にご家族に参加して頂いてご意見・要望等を頂いている。今後、介護相談員の派遣や家族会を発足により意見や要望等を求めやすくなるのではと思う。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議の前に書面で職員からの意見や提案を出してもらい会議の際に再度確認し反映させている。代表者も会議に参加され意見や提案がしやすい。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な会議に代表者が参加されることで直接処遇面等の動向を確認できるなど職員の個々の意見を伝えやすい場がある。資格に関しては合格祝い金の給付などやりがいや向上心につながるような環境整備も行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での研修会参加、できるだけ外部研修への参加機会を設けるよう努力はしている。内部研修は年間計画に基づく研修や適宜必要な研修会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡会の研修会等に参加し意見交換等を行い当ホームの質の向上に取り組んでいる。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入以前に関わっているケアマネや事業所担当者、ご家族から不安や要望等の情報収集した上でできるだけ寄り添えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用相談時に困られていることや不安なところなどを傾聴しできるだけ安心してご入居できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入以前に関わっているケアマネや主治医、事業所担当者から情報収集した上で職員、ご家族で情報共有しケアを行いながらご本人の不安をできるだけ取り除けるよう必要な支援を見極めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できること(料理や掃除など)を見極めて見守りながら手伝わなくてはいけないところは職員間で情報共有し支援をし本人の役割を粗こわないように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族の距離感や関係を粗こわないようにご家族のできる範囲での協力依頼と関わりの大切さを伝えている。またできるだけご家族との連絡や面会時の近況報告や相談を密に行うようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居前のいきつけのお店への訪問や今までのかかりつけ医の利用などご家族の協力も得ながら行っている。ご友人との関わりも継続して行える様面会時等はゆっくり過ごせるような配慮をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できるだけ孤立がないようにつとめているが個を好まれている方への配慮もしながら職員が利用者の間にはいり円滑なコミュニケーションがとれるよう努めている。関係性をみながら席替えをしたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された際は、お見舞いに行ったりご家族への電話等での連絡を密にし状況を把握したりしている。退所された方には年賀状のやり取りを行い関係性を継続している。亡くなられた方のご家族とはボランティアという関わりで関係性が継続できているケースもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で、思いや気持ちを把握し出来るだけ意向に沿えるよう努めている。ご利用者ごとの担当制にしカンファレンス等で話し合い情報の共有を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス導入以前のケアマネ等やご家族、本人から情報収集しご希望や継続できる部分は継続できるよう職員間で共有し対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の顔色や言動の変化に注意し朝礼時の際の申し送りでの情報収集や日誌、申し送りノートの確認等で各自状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員と計画作成者のみならずカンファレンスでは他職員の意見、また事前に主治医の意見やご家族や本人の意向も参考にプランに反映させ現状に即した計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に関してはタブレットにて電子化されており各自閲覧をすることで情報共有をしているがケアプランとの連動した記録に関して各ケアプランをファイリングし情報共有に努めているが改善が必要である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関からの定期的な訪問診療、訪問マッサージ、整体、訪問理美容また、地域のサロンへ参加など本人やご家族のご希望を受け入れやすくしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の際にボランティアの協力依頼や地域のサロン活動や行事等の情報提供をして頂き参加している。又、回覧板を職員同行し利用者にもっていってもらったりも行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際、協力医の訪問診療を希望するかどうかを確認し、家族が選択するように説明している。緊急時は早急に診察が受けれるようにご利用者に変化があればこまめに情報提供をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の変化に対しては、ユニット問わずその都度、看護師に報告している。看護師は両ユニットの情報交換をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院へ入所中の情報提供を行い、退院時は可能な限り病棟看護師と話し、退院後の注意点や入院中の状況を把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の看取りに対する同意書、延命希望の有無の説明を行っている。担当者会議、状態変化時に意向の再確認を実施している。終末期の対応はないが、看取りの対象者がいれば支援方法等話し合う場を設ける。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成しスタッフ全員一読している。症状別対応マニュアルを使用し研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を消防署員立会いの下行っている。また定期的な会議の際に災害時の避難場所や物資の搬入先等の確認やマップを掲示している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スピーチロックに関するアンケートを職員に実施し会議の際に周知徹底を行ったり、職員間で排泄確認の声かけの配慮、本人へ排泄確認の際は耳元で確認したりの配慮を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	否定せずできるだけ時間をかけて本人の話を傾聴し希望や訴えを確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴、就寝時間など必ず本人に確認をしながら一人一人のペースを大事にし過ぎて頂けるよう職員間での情報共有を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容の支援、外出着や生活着を本人に選んで頂いて確認を行い、化粧をされている方の支援や促しにも注意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月1日に赤飯を提供したり季節の行事の際は雰囲気を変え松花堂弁当にて提供したりしている。出来る事の見極めを行い下ごしらえの手伝いや配膳、下膳、洗い物やお盆拭きなどして頂いている。その日の献立は見える所に掲示している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立表を基に摂取量は毎日記録に残し体調や状態に応じて形態の変更等を行い、変更が共有できるように掲示したり、食札を作りその都度分かるようになっている。水ゼリーや本人が好まれる物なども撮り得れて摂取量が確保できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に歯科訪問診療を受け清掃方法等の助言を頂きながらできるだけ自身で行って頂き仕上げ磨きをお手伝いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの間隔を考慮し、声掛けの時間を決めてご利用者がいる。オムツ使用は夜間とし日中はトイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	以前より下剤内服しているご利用者は継続し、コントロールしている。その他のご利用者に対しては定期的な牛乳やバナナ等食べ物を工夫している。必要時は内服処方を短期間依頼する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の状況によって午前・午後で対応している。できるだけ車椅子の方もスタッフ2名にて浴槽内に浸かって頂いてリラックスできるように努めている。季節を感じてもらえるようゆず湯等も行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決めておらず眠くなれば臥床を促している。不眠の為苦痛を伴う時は、日光浴等実施し効果がなければ眠剤を検討している。適宜、訪室し室温調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	重要な薬については、スタッフに伝達し注意事項を説明している。内服については、複雑にならないように一包化しダブルチェックをし与薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や趣味等を考慮しながらご本人の想いを確認しながらできること、したいことの見極めをしっかりと行ないながら無理のないように見守り、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力を得ながら外出の機会を設けたり季節がいい時期などは行事などで外に出る機会を設けている。近隣周辺の散歩等も状況をみながら対応している。外出ではないが気候がいい日など1日1回は日に当たる機会を設けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しい方は規定にご家族から同意を頂き事業所にて預かり本人の状況希望にて買物支援などを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から時間指定等要望があられる方以外は特に制限はしていない。携帯電話を所持されている方もおられる。家族との電話受け継ぎを行い連絡が取れる体制を整えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先にはご家族が提供して下さったひな人形を飾ったり観葉植物を飾ったり、季節の花等をテーブルに飾ったり月毎の壁面装飾を工夫したりしている。ご利用者によっては自身が書かれた絵や作品、ご家族との写真等を居室に飾ったりして頂いて心地よく過ごせるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者が好まれる場所(日当たりのよい場所やテラス等)に椅子を配置したり、好きな音楽をゆっくり鑑賞できるよう別室を利用したりしてゆっくり心地よく過ごせるような空間作りを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身が書かれた絵や作品、ご家族との写真等を飾ったり、馴染みの家具等を持ってきて頂いたりして居心地良く過ごせるような空間づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ等が分かるような表示の工夫やご自分で自身の居室と確認がとりやすような位置に表札を掲げている。また、居室内の動線を考えての物の配置や移乗バーの設置することで安全かつ自立した生活が送れるよう努めている。		